

(案)

# 第四次国有林野施業実施計画書

(後志胆振森林計画区)

計画期間 (自 平成25年 4月 1日  
至 平成30年 3月31日)

策 定 年 月 日 : 平成25年3月 日

北海道森林管理局



目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの 伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 伐採総量	2
	(5) 更新総量	4
	(6) 保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	
	(1) 保護林の名称及び区域	7
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	8
6	レクリエーションの森の名称及び区域	9
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	12
8	その他必要な事項	
	(1) 施業指標林、試験地等	13
	(2) フィールドの提供	15
	(3) 森林共同施業団地	15

---

別表 保護林及び緑の回廊・レクリエーションの森等の箇所別一覧表

保護林

緑の回廊

レクリエーションの森



- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域  
国有林野施業実施計画図（別添1）による。
- 2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
  - (1) 伐採造林計画簿  
伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿（別添2）による。
  - (2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：h a)

区分	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年	
			樹種	
単層林施業群	9,933	人為を積極的に加えることにより、単層状態の森林を造成・維持する。 【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	65年
			アカエゾマツ・エゾマツ	80年
			カラマツ・グイマツ	50年
			スギ	65年
			その他針葉樹	60年
長期単層林施業群	-	人為を積極的に加えることにより、伐期の長期化を図り、単層状態の森林を造成・維持する。 【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	120年
			カラマツ・グイマツ	80年
			スギ	100年
			その他針葉樹	90年
複層林施業群	1,296	人為を積極的に加えることにより、複数の樹冠層を有する森林を造成し、将来にわたり非皆伐状態を維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	トドマツ	伐採始期 60年 伐採終期 100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	伐採始期 70年 伐採終期 120年
			カラマツ・グイマツ	伐採始期 40年 伐採終期 80年
			スギ	伐採始期 50年 伐採終期 80年
			その他針葉樹	伐採始期 50年 伐採終期 90年
混交林施業群	1,868	必要により人為を加えることにより、広葉樹等の導入・育成を図り、針広混交林を造成・維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	針葉樹林 30年 針広混交林 30年 広葉樹林 35年	
育成天然林施業群	29,186	必要により人為を加えることにより、多様な樹種による複数の樹冠層を有する森林を造成・維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】		
天然生林施業群	9,810	天然力を活用することにより、森林を造成・維持する。 【施業方法：天然生林へ導くための施業】		
合計	52,094			

注) 林地面積の集計である。  
計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。(以下の表についても同じ)

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施業群	単層林	長期単層林	複層林	混交林	育成天然林	天然生林
上限伐採面積	790	-	242	311	4,864	1,635

(4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、h a)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	8,872	(342) 11,776	20,648				
自然維持タイプ	-	(38) 1,520	1,520				
森林空間利用タイプ	935	(28) 1,006	1,941				
快適環境形成タイプ	-	-	-				
水源涵養タイプ	単層林	(1,640) 5,243	76,084				
	長期単層林	-	-				
	複層林	(454) 4,137	23,778				
	混交林	(233) -	9,222				
	育成天然林	-	-				
	天然生林	-	-				
	計	(2,327) 9,380	99,704	109,084			
合 計	19,187	(2,735) 114,006	133,193	15,000	148,193	-	148,193
年 平 均	3,837	(547) 22,801	26,639	3,000	29,639	-	29,639

注) 上段 ( ) は、間伐面積である。

## (再掲) 市町村別内訳

(単位: m<sup>3</sup>、h a)

市町村名	林 地					林 地 以 外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
室 蘭 市	-	(36) 2,164	2,164				
登 別 市	403	(438) 18,944	19,347				
伊 達 市	8,368	(929) 43,067	51,435				
島 牧 村	-	(167) 4,986	4,986				
寿 都 町	-	(219) 9,442	9,442				
黒 松 内 町	-	(323) 11,664	11,664				
留 寿 都 村	-	(19) 676	676				
喜 茂 別 町	1,691	(14) 484	2,175				
京 極 町	1,860	(20) 466	2,326				
俱 知 安 町	-	(3) 136	136				
共 和 町	407	(135) 4,971	5,378				
岩 内 町	82	(13) 293	375				
泊 村	378	(28) 702	1,080				
神 恵 内 村	2,045	(66) 1,982	4,027				
壮 警 町	3,953	(324) 14,029	17,982				
合 計	19,187	(2,735) 114,006	133,193				

注1) 市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まれていない。

注2) 上段( )の数値は間伐面積(h a)を表し、合計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。

## (5) 更新総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
人工 造林	単層林造成	-	-	0	-	15	15
	複層林造成	99	-	7	-	55	160
	計	99	-	7	-	69	175
天然 更新	天然下種第1類	312	-	-	-	174	487
	天然下種第2類	-	-	-	-	-	-
	ぼう芽更新	-	-	-	-	-	-
	計	312	-	-	-	174	487
合 計		411	-	7	-	244	662

## (6) 保育総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
保 育	下 刈	1,780	-	51	-	1,124	2,955
	つる切り	-	-	-	-	64	64
	除 伐	1	-	-	-	66	67



3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設・ 改良	路線名	箇所(林班)	延長(m)	箇所数 (改良)	備考
その他	開設	田中工場の沢林道小錫の 沢支線二の沢分線	289, 290, 291	4,100		伊達市
		若槻保護林線	281, 282, 283	2,400		伊達市
		稀府林道第一支線	2210, 2211	2,000		伊達市
		樽岸	3064, 3065, 3066, 3067, 3068	3,000		寿都町
		中の川ワイス線	1430, 1431, 1434	1,000		共和町
		共和中の川	1434, 1435	2,000		共和町
		当別川	1515	900		岩内町
		関内喜門別線	2168, 2171, 2172, 2174	4,000		壮瞥町
	計	8 路線		19,400		
森林計画区合計						
開設	基幹	- 路線		-		
	その他	8 路線		19,400		
	計	8 路線		19,400		
改良	基幹	- 路線		-		
	その他	- 路線		-		
	計	- 路線		-		

注) 災害復旧等緊急を要する改良については、指定箇所以外においても実行ができるものとする。

4 治山に関する事項

位置	区分	工種	計 画 量	備 考
2403林班	保全施設	溪間工	7 箇所	
2404林班	保全施設	溪間工	3 箇所	
2405林班	保全施設	溪間工	5 箇所	
2409林班	保全施設	溪間工	1 箇所	
2410林班	保全施設	溪間工	2 箇所	
2411林班	保全施設	溪間工	3 箇所	
2412林班	保全施設	溪間工	5 箇所	
2413林班	保全施設	溪間工	1 箇所	
3349林班	保全施設	溪間工	1 箇所	
3510林班	保全施設	溪間工	1 箇所	
1017林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
1083林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
1458林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
1540林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
2387林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
3350林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
3497林班	保全施設	山腹工	2 箇所	
3505林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
3509林班	保全施設	山腹工	1 箇所	
2404林班	保全施設	保安林管理道	1 箇所	
2405林班	保全施設	保安林管理道	1 箇所	
2411林班	保全施設	保安林管理道	1 箇所	
2413林班	保全施設	保安林管理道	1 箇所	
235林班	保安林の整備	本数調整伐	1 ha	
252林班	保安林の整備	本数調整伐	1 ha	
312林班	保安林の整備	本数調整伐	11 ha	
1176林班	保安林の整備	本数調整伐	5 ha	
1204林班	保安林の整備	本数調整伐	21 ha	
1350林班	保安林の整備	本数調整伐	7 ha	
2035林班	保安林の整備	本数調整伐	13 ha	
2217林班	保安林の整備	本数調整伐	8 ha	
2361林班	保安林の整備	本数調整伐	2 ha	
2363林班	保安林の整備	本数調整伐	15 ha	
2390林班	保安林の整備	本数調整伐	5 ha	
2392林班	保安林の整備	本数調整伐	2 ha	
3050林班	保安林の整備	本数調整伐	7 ha	
3082林班	保安林の整備	本数調整伐	4 ha	
3084林班	保安林の整備	本数調整伐	5 ha	
3138林班	保安林の整備	本数調整伐	2 ha	
3139林班	保安林の整備	本数調整伐	17 ha	
森林計画区合計	保全施設	溪間工	29 箇所	
		山腹工	10 箇所	
		保安林管理道	4 箇所	
		計	43 箇所	
	保安林の整備	植栽工	- ha	
		本数調整伐	126 ha	
		計	126 ha	

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域  
 (1) 保護林の名称及び区域

種 類	名 称	新設・ 既設	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林 木 遺 伝 資 源 保 存 林	函館アカエゾマツ2 林木遺伝資源保存林	既設	104.41	別表 参照	泊地区のアカエゾマツの群生地を 保存している。
	函館アサダ11 林木遺伝資源保存林	既設	5.81	別表 参照	豊浦地区のアサダの群生地を保存 している。
	函館エゾマツ3 林木遺伝資源保存林	既設	219.10	別表 参照	京極地区のエゾマツの群生地を 保存している。
	函館カシワ10 林木遺伝資源保存林	既設	5.20	別表 参照	島牧地区のカシワの群生地を保存 している。
	函館トドマツ1 林木遺伝資源保存林	既設	17.00	別表 参照	神恵内地区のトドマツの群生地を 保存している。
	函館ブナ4 林木遺伝資源保存林	既設	154.32	別表 参照	北限地帯のブナの群生地を保存し ている。
	森 林 計 画 区 計	6箇所	505.84		
	植 物 群 落 保 護 林	ペーパナイ湿原 植物保護林	既設	262.42	別表 参照
歌才 植物群落保護林		既設	92.43	別表 参照	ブナ自生北限地帯の代表的森林 として、学術的価値が高く、昭和3 年に天然記念物に指定された林分を 保護している。
御園 植物群落保護林		既設	19.76	別表 参照	汎針広混交林地帯におけるトドマ ツと広葉樹の混交林で山地帯原植生 の代表林分を保護している。
狩場山 植物群落保護林		既設	96.59	別表 参照	ブナ林分布地帯の北限地帯で、狩 場山の特殊な基岩に基づく固有の植 物群を保護している。
大谷地 植物群落保護林		既設	18.33	別表 参照	遺存種といわれるフサスギナの群 生地を保護している。
大平山 植物群落保護林		既設	511.26	別表 参照	石灰岩植生の自生地として北海道 においても数が少ない地域で、分布 上貴重な植物を保護している。
中山峠 植物群落保護林		既設	24.50	別表 参照	湿原系のアカエゾマツ純林を保護 している。
登別 植物群落保護林		既設	185.87	別表 参照	本道中帯南部の植物区分を代表す る森林として大正13年に天然記念 物に指定された林分を保護してい る。
無意根山周辺 植物群落保護林		既設	1,163.72	別表 参照	ハイマツ-コケモモ群落等亜高山帯 の原生的植生を保護している。
森 林 計 画 区 計		9箇所	2,374.88		
森 林 計 画 区 合 計	15箇所	2,880.72			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名 称	新設・ 既設	延長	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	特 徴 等
支笏・無意根 緑の回廊	既設	27km	3,412.72	別表 参照	この緑の回廊は、漁岳周辺森林生態系保護地域、無意根山周辺植物群落保護林をつないでいる。
森林計画区合計	1箇所	27km	3,412.72		

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
自然休養林	ニセコ・神仙沼 自然休養林	既設	2,743.71	別表参照	1000m級の山岳、湖沼等のレクリエーション資源が豊富で、施設等も高水準に整備されており、これらの資源を有効活用し、登山、ハイキング、自然探勝、スキー等の場として利用されている。	複天	スキー場外 (国、倶知安町、共和町、民間)	歩道延長23655m外	
	(野外スポーツゾーン) (風景ゾーン)		1,381.31 1,362.40						
	ホロホロ山 自然休養林	既設	553.46	別表参照	ホロホロ山(1322m)、徳舜督山(1309m)の西方三麓に位置しており、春の新緑、夏の避暑登山、秋の紅葉等、自然観察や景観を楽しむことができる。	複天	管理用道路 (国)	管理用道路 7749m	
	(風景ゾーン)		553.46						
自然休養林	狩場山 自然休養林	既設	1,648.17	別表参照	狩場山(1520m)、東狩場山(1319m)、オコツナイ岳(1170m)等1000m級の急峻な山々からなる豪壮雄大な山岳景観に加え、下流に近接する賀老高原におけるキャンプ利用を楽しむことができる。また、オコツナイ沼に映える水面景観、賀老高原地帯のうっそうとしたブナ原生林と隣にある落差70mの賀老の滝は深山幽谷の趣を感じさせる。	複天	歩道外 (国)	歩道延長19000m外	
	(風景ゾーン)		1,648.17						
	森林計画区計	3箇所	4,945.34						
野外スポーツ地域	岩内岳国設スキー場	既設	269.50	別表参照	岩内岳国設スキー場と一体となったミズナラ、イタヤ等を主とする天然の広葉樹林等で、眼下に広がる岩内平野と遠くは積丹半島の山岳群等の眺望がすばらしく、四季を通じて利用されている。	複天	スキー場外 (岩内町)	登山道延長 1900m	
	ワイスホルンスキー場	既設	175.56	別表参照	ワイスホルンスキー場と一体となった森林で、多量で良質な雪質に恵まれ、長期間にわたってのスキーに利用されている。	複天			

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
野 外 ス ポ ー ツ 地 域	中山峠 スキー場	既設	245.50	別表 参照	国道230号線（中山峠）に隣接する中山峠スキー場と一体となった亜高山帯の森林で、大都市近郊であるという好立地条件にあり、多くのスキー客を中心として利用されている。	複 天	スキー場 （喜茂別町）		
	貫気別岳 スキー場	既設	584.21	別表 参照	羊蹄山南東山麓の留寿都村に所在する貫気別岳（993m）北西斜面に位置する貫気別岳スキー場と一体のダケカンバを主体とする森林で、スキーだけでなく近隣のレジャー施設の利用と併せて多目的に利用されている。	複 天	スキー場 外 （民間）		
	国設 カルルス温泉 スキー場	既設	88.05	別表 参照	カルルス温泉に隣接するスキー場と一体となった森林で、オロフレ山（1231m）、来馬岳（1040m）等の山々に囲まれ、千歳川の溪間の静寂な環境に恵まれている。 また、春の新緑、夏の深緑、秋の紅葉等がすばらしく四季を通じて滞在、通過の両型に利用されている。	天	スキー場 外 （登別市、民間）		
	室蘭岳 スキー場	既設	72.34	別表 参照	室蘭岳（911m）と一体となった森林で、春の新緑、夏の深緑、秋の紅葉等がすばらしく、四季を通じて利用されている。	複 天			
	寿都 スキー場	既設	2.84	別表 参照	寿都スキー場と一体的に保健休養及び青少年教育の目的にも利用されている。	複	スキー場 （寿都町）		
	森林計画区計	7箇所	1,438.00						

種類	名 称	新設・既設	面積 (h a)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
風景林	西の河原風景林	既設	172.81	別表参照	積丹半島脊梁山脈の西側先端の日本海に面したイタヤ、ミズナラ、トドマツ等が主体の天然林で、海蝕崖に這うように矮小化した木々が積丹ブルーにアクセントを与え、その調和を楽しむことができる。	天	遊歩道 (神恵内村)		
	神恵内風景林	既設	152.30	別表参照	西積丹のほぼ中央に位置する日本海に面したイタヤ、ミズナラ等が主体の天然の広葉樹林で、近隣の神恵内青少年旅行村の利用と併せて、季節風の影響を受けた矮小化した木々と日本海との調和を楽しむことができる。	複天			
	茂岩風景林	既設	31.43	別表参照	西積丹の南部で日本海に面したイタヤ、ミズナラ等が主体の天然の広葉樹林で、春から秋にかけて日本海との調和を楽しむことができる。	天	遊歩道 (泊村)		
	無意根風景林	既設	718.59	別表参照	無意根山等の登山や沼・高層湿原の散策・探勝だけでなく、周辺の名山を望む眺望を楽しむことができる。	複天			
	洞爺湖風景林	既設	571.60	別表参照	洞爺湖湖畔と中島等に位置するイタヤ、センノキ、シナノキ等が主体の天然の広葉樹林で、不凍湖である洞爺湖と周囲の森林の四季折々の色彩から醸しだされるコントラストを楽しむことができる。	複天	園地外 (国、洞爺湖町、壮瞥町)	歩道延長11860 m	
	オロフレ峠風景林	既設	504.33	別表参照	オロフレ峠 (1033 m) 付近の紅葉から高山植物まで楽しむことのできる地域である。 また、北には羊蹄山、西には有珠山、昭和新山、内浦湾を望む大パノラマが展開する。	複天	園地外 (北海道、登別市)		

種類	名称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
風景林	登別温泉風景林	既設	388.70	別表参照	登別温泉市街地を囲むような急峻な森林で、周囲には「地獄谷」、「大湯沼」等の名勝地等レクリエーション資源が豊かで、その景観の一部を構成している。	複天	園地外 (北海道、登別市)		
	森林計画区計	7箇所	2,539.76						
風致探勝林	当丸峠風致探勝林	既設	327.17	別表参照	積丹半島脊梁山脈の両古美山 (814m)、当丸山 (800m) の南西斜面に位置する天然の広葉樹林で、積丹半島を周遊する観光客が立ち寄り、当丸沼の散策や両古美山への軽登山等の場として利用されている。	複天	遊歩道 (神恵内村)	遊歩道延長 2200m	保健機能森林に該当する森林
	森林計画区計	1箇所	327.17						
その他の (レクリエーション) 施設敷	有珠山単独施設	既設	5.06	別表参照	有珠山のロープウェイ、園地等の施設敷		園地外 (北海道、伊達市、民間)		
	森林計画区計	1箇所	5.06						
森林計画区合計		19箇所	9,255.33						

注1) 備考欄の「保健機能森林に該当する森林」とは、「森林の保健機能の増進に関する特別措置法」に基づき、施設の整備を森林の施業と一体的かつ計画的に推進する森林のことを指す。

注2) 施業方法 単＝育成単層林へ導くための施業 複＝育成複層林へ導くための施業  
天＝天然生林へ導くための施業

## 7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし



8 その他必要な事項  
 (1) 施業指標林、試験地等

種類	名 称	設定年	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	備 考
遺伝子保存林	ダケカンバ倶知安A 遺伝子保存林	昭和50年	1.40	237 た	材木の優良な遺伝子群を確保し、これを保存し、遺伝子補給源として活用することを目的に設定している。
			1.37	237 れ	
		計	2.77		
	ダケカンバ倶知安B 遺伝子保存林	昭和50年	2.64	237 そ	
	森林計画区計	2箇所	5.41		
検定林	北適応函第4号 試植検定林	昭和62年	1.75	281 ち2	外国からの導入樹種や在来品種の林分特性、立地適応性等の検定を目的として設定している。
	北函8号地域差検定林	昭和63年	4.00	2043 ほ	一群の精英樹系統種苗が、揃って良好な成長を示す地域(適応範囲)を判定し、種苗の配布区域を定める目的で設定している。
	北函9号地域差検定林	平成4年	2.00	2407 ほ	
		森林計画区計	3箇所	7.75	
施業指標林	カンバ天然林 施業指標林	昭和63年	1.00	183 ろ	天然林施業体系の指標としている。
		森林計画区計	1箇所	1.00	
試験地	カラマツ人工林 収穫試験地	昭和40年	0.85	2211 ね	収穫試験施行要綱に基づいた試験地である。
		昭和40年	0.25	2211 な	
	トドマツ人工林 収穫試験地	昭和37年	0.54	2411 ぬ	林分の成長量・枯損量の調査及び資料収集のための試験地である。
	成長量試験地	昭和26年	1.68	3318 ろ	
	森林計画区計	4箇所	3.32		
モデル林	鷲別ダム上流 水源かん養モデル林	平成12年	1.30	2227 に	鷲別ダム上流域の水源かん養等の機能を重視した育成複層林施業のモデル林である。
			0.70	2227 と	
			1.40	2227 れ	
			3.50	2227 そ	
			3.56	2227 つ	
			7.22	2227 ね	
			3.40	2227 な	
			1.95	2227 ら	
			2.41	2227 う	
			1.40	2227 の	
			1.65	2227 お	
3.70	2228 ろ				
	計	32.19			

種類	名 称	設定年	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	備 考
モデル林	有珠山昭和川 国土保全モデル林	平成12年	3.26	2413 い	有珠山周辺の国土保全機能を重視した山地治山、育成複層林施業のモデル林である。
			3.50	2413 ろ	
			1.07	2413 は	
			0.04	2413 に	
			5.53	2413 ほ	
			10.50	2413 へ	
			2.00	2413 わ	
			2.00	2413 か	
			1.71	2413 そ	
			0.17	2413 つ	
			0.50	2413 な	
			3.72	2413 ら	
			2.00	2413 む	
2.10	2413 う				
	計	38.10			
	森林計画区計	2箇所	70.29		
母樹林	林業種苗法に基づく 育種又は普通母樹・ 母樹林	昭和48年	11.11	282 へ	配布の目的のための優良な種穂の採取に適する森林等育成し、又は改良するため特に優良な種穂の確保を図ることとしている。
		昭和48年	0.34	282 り	
		昭和48年	0.24	282 ぬ	
		昭和48年	19.76	283 か	
		昭和48年	1.34	283 よ	
		昭和48年	8.48	288 へ	
		平成20年	11.88	1333 イ	育種母樹林
	森林計画区計	7箇所	53.15		
森林計画区合計		19箇所	140.92		

注) 備考欄の「収穫試験地施行要綱」とは、現行あるいは将来予想される施業法によって施業した場合の成長量、及び収穫量その他の統計資料を収集するとともに林分構造の推移を解明する目的をもって設定した固定試験地である。

(2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設定の目的	備考
2397 ほ、へ ぬ、そ な、う の、く	ふれあいの森 (登別温泉ふれあいの森)	協定面積14.83ha 登別観光協会
森林計画区計		面積14.83ha
2273 へ3、へ4 ち、か、よ 2320 い～に、ハ	遊々の森 (ふおれすと鉱山ふれあ いの森)	協定面積22.39ha 登別市教育委員会
3516い～る つ～む の～や 3517い～む	遊々の森 (精二郎ブナの森)	協定面積204.35ha NPO法人ねおす
森林計画区計		面積226.74ha
3015い、ろ、は 3016い	モデルプロジェクトの森 として (黒松内岳ブナ林再生プ ロジェクト)	協定面積4.01ha 黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行 委員会
森林計画区計		面積4.01ha
3010ろ、は、ほ へ、ロ	多様な活動の森として (黒松内岳登山歩道修理等 ボランティア事業)	協定面積0.42ha (2,800m) 黒松内銀竜草の会
森林計画区計		面積：0.42ha (2,800m)
森林計画区合計		面積：246.00ha(2,800m)

(3) 森林共同施業団地

該当なし